

入 札 公 告

次のとおり一般競争入札に付します。

令和 3 年 7 月 2 9 日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所 管理部門長 神山 孝史

1. 調 達 内 容

- (1) 調達件名及び数量 宮古庁舎淡水井戸改修業務 一式
- (2) 調達仕様 入札説明書による。
- (3) 履行期限 令和4年2月28日
- (4) 履行場所 入札説明書による。
- (5) 入札方法 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（当該金額に当該金額の100分の10を加算した金額を切り捨てた金額）をもち、その入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか否かを確認し、見積もった契約希望金額を入札書に記載する。

2. 競 争 参 加 資 格

- (1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構契約事務取扱規程（平成13年4月1日付け13水研第65号）第12条第1項及び第13条の規定に該当しない者であること。
- (2) 令和1・2・3年度国立研究開発法人水産研究・教育機構競争参加資格又は全省庁統一資格の「役務の提供等」の業種「調査・研究」または「建物管理等各種保守管理」で「B」、「C」又は「D」いずれかの等級に格付けされている者であること。
- (3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長から物品の製造契約、物品の販売契約及び役務等契約指名停止措置要領に基づき指名停止を受けている期間中でないこと。ただし、全省庁統一資格に格付けされている者である場合は、国の機関の同様の指名停止措置要領に基づき指名停止を受けている期間中でないこと。
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第32条第1項各号に掲げる者でないこと。

3. 入 札 説 明 書 等 の 交 付 方 法

- 競争参加希望者は、以下により入札説明書等（入札説明書、入札心得書、契約書案、入札書様式、委任状様式等）の交付を受けること。
- ① 直接交付 岩手県宮古市岐山4-9-1
国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所宮古庁舎
管理部門管理課
電話 0193-63-8121
FAX 0193-64-0134
- ② 郵送による交付 封書に「宮古庁舎淡水井戸改修業務入札説明書希望」と記入し、返信用封筒（角2）に140円切手を貼付し、上記①あて郵送のこと。
- ③ メールによる交付 任意書式に「宮古庁舎淡水井戸改修業務入札説明書メールアドレス」を記入し、社名、担当者名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、上記①あてFAX送信すること。

4. 入 札 説 明 会 の 日 時 及 び 場 所 等

仕様書等に関する質疑がある場合には、令和3年8月16日までに上記3.あてにメール（アドレスは入札説明書に記載）又はファックスにて入札説明書受領者全員に対して行うとともに、当機構のホームページにて公表することにより入札説明会に代える。

なお、当該日以降に質疑が発生した場合も随時受け付け、同様に対応する。ただし、質疑内容に個人に関する情報であって特定の個人を識別し得る記述がある場合及び法人等の財産権等を侵害するおそれのある記述がある場合には、当該箇所を伏せ又は当該質疑を公表せず、質疑者のみに回答することがある。

5. 入札の日時及び場所等

- (1) 入札の日時及び場所 令和3年8月23日 14時00分
岩手県宮古市崎山4-9-1
国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所宮古庁舎 大会議室
- (2) 郵便による入札書の受領期限及び提出場所 令和3年8月23日 12時00分
3. ①に同じ。

6. その他

- (1) 契約手続きにおいて使用する言語及び通貨 日本語及び日本国通貨。
- (2) 入札保証金及び契約保証金 免除。
- (3) 入札の無効 本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書及び入札に関する条件に違反した入札書は無効とする。
- (4) 契約書作成の要否 要。
- (5) 落札者の決定方法 予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った入札者を落札者とする。
- (6) 競争参加者は、入札の際に国立研究開発法人水産研究・教育機構の資格審査結果通知書写し又は全省庁統一資格の資格審査結果通知書写しを提出すること。
- (7) 詳細は入札説明書による。

7. 契約に係る情報の公表

- (1) 公表の対象となる契約先
次の①及び②いずれにも該当する契約先
① 当機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等※注1として再就職していること
② 当機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること※注2
- なお、「当機構」とは、改称前の独立行政法人水産総合研究センター及び国立研究開発法人水産総合研究センター、統合前の独立行政法人水産大学校を含みます。※注1 「役員、顧問等」には、役員、顧問のほか、相談役その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言すること等により影響力を与えたと認められる者を含む。※注2 総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績による。
- (2) 公表する情報
上記(1)に該当する契約先について、契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。
① 当機構の役員経験者及び課長相当職以上経験者（当機構OB）の人数、職名及び当機構における最終職名
② 当機構との間の取引高
③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれか
3分の1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上
④ 一者応札又は一者応募である場合はその旨
- (3) 当機構に提供していただく情報
① 契約締結日時時点で在職している当機構OBに係る情報（人数、現在の職名及び当機構における最終職名等）
② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高
- (4) 公表日
契約締結日の翌日から起算して原則として72日以内（4月に締結した契約については原則として93日以内）

(5) その他
当機構ホームページ（契約に関する情報）に「国立研究開発法人水産研究・教育機構が
行う契約に係る情報の公表に及び情報公開の促進に関する法律」が掲載されているので、ご
要の情報を掲載し、ご依頼の件について、ご返信いたします。
また、ご依頼の件について、ご返信いたします。

8. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン
（実施基準）」（平成19年2月15日文部科学大臣決定）に沿って、公的研究費の契約等
における不正防止の取り組みを行っており、取り組みのひとつとして、取引先の皆様に「国立研
究開発法人水産研究・教育機構との契約等に当たっての注意事項」（URL：http://www.fra.affrc.go.jp/keiyaku/pledge_request/note_contract.pdf）をご理解いただき、一定金額以上
の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。
公的研究費の不正防止関係書類（①公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出につい
て、②国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等に当たっての注意事項、③誓約書）は、
入札説明書に添付しますので、契約相手方となった場合は、誓約書の提出をお願いします。
なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大、学校いずれか1箇所に1回提出し
ていただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

業務仕様書

1. 件名 宮古庁舎淡水井戸改修業務
2. 業務目的 国立研究開発法人水産研究・教育機構宮古庁舎の構内に設置されている淡水井戸施設に関して、海水化を抑止する安全水位を下回っていることから、内部の改修を実施し揚水能力の回復を図ることを目的とする。
3. 業務場所 岩手県宮古市崎山4 - 9 - 1
国立研究開発法人水産研究・教育機構
宮古庁舎
4. 履行期限 令和 4年 2月28日
5. 業務内容
過去に実施した井戸内部の点検結果や水位のモニタリング結果などに基づき、下記のとおり井戸の改修を実施すること。なお、詳細は別紙特記仕様書のとおり。
井戸内部の給水ポンプ等を撤去し、ブラッシング・スワビングによる内部清掃、エアリフトによる内部堆積物の浚渫排出を行う。
点検用カメラ、揚水試験、微流速検層、電気伝導度検層、水質分析により効果を確認する。
作業終了後、給水ポンプ等の原状復帰を行う。
検層結果等に基づき、安全揚水量、井戸運用管理方法に関する安定運用案を書面にて提示する。
6. 特記事項
本業務の着手に当たり、事前に担当職員と協議のうえ作業計画及び作業工程表を提出すること。
業務完了後は、特記仕様書に沿って関連資料を提出すること。
本業務に必要な電力等は構内施設から無償で使用できるものとする。
7. その他 詳細については担当職員の指示に従うこと。

宮古庁舎淡水井戸改修業務

特記仕様書

井戸改修等業務

1. 目的

宮古庁舎の既存井戸は、平成29年9月に能力回復を目的とした改修工事を実施し井戸の能力が回復したが、令和元年9月あたりから揚水量が500 /分まで低下し、冬の渇水期においては100 /分しか揚水できず、井戸の能力が低下していることが明らかとなったことから、能力の回復を目的とした井戸の改修を実施する。

2. 改修仕様

目的	項目	仕様
能力回復	ブラッシング	500mm × 深度20m
	スワビング	
	エアーリフト	
効果確認	水中テレビカメラ	前方視・側方視
	揚水試験	段階試験 2時間 × 4段階 一定量試験 24時間揚水・回復 (潮位補正)
	微流速検層	定水位法 × 1 変水位法 × 2
	電気伝導度検層	単一内極式・自然水位法1回
	水質分析	15項目
仮設	既設ポンプ撤去・設置	100mm × 4m × 3本 = 12m
その他	検討	安全揚水量および井戸管理方法検討

1) ブラッシング

ケーシング内面のスケールを除去する為に井戸孔底までホイールブラシにより清掃する。作業はブラシ上に浚渫物が無くなるまで繰り返し行い、以下の事項を記録する。

ブラシ上の堆積物の分類（砂の状況、スケール、その他）
堆積物の量

2) スワビング

スクリーン部目詰まり解消の為にスワブ玉を用いて実施する。以下の状況を確認・記録し、排砂と濁りが無くなるまで繰り返す。

濁り・排砂の量（毎回）
孔底深度（毎回）
スワブ玉上の堆積物（現象の発生毎）
クレーン荷重（現象の発生毎）

3) エアーリフト

孔底の堆積物を浚渫し、清水を確認するまで実施する。以下の状況を記録する。

浚渫物の分類（細砂・中砂・粗砂・その他）
浚渫物の量
水位・揚水量

4) 水中テレビカメラ

井戸改修後、井戸口元から孔底までを前方視および側方視で撮影し記録する。

井戸孔内の破損有無および箇所

ケーシングの状況

スクリーンの種類および設置深度と目詰まりの程度

孔底深度

5) 揚水試験

改修後の井戸能力確認のため、段階揚水試験を実施する。試験の方法は下記の通りとする。

試験名	方法
予備揚水	揚水量を4段階に変化させて各30分程度行う
段階揚水試験	2時間揚水×4段階

揚水方法は試験用水中モーターポンプによるが、詳細については担当職員の指示による。

揚水試験の観測項目は、水位、揚水量、温度、電気伝導度とする。

段階試験は、予備揚水で得られた最大揚水量を4等分にした揚水量で実施する。

周辺の既存井戸の水位および河川水位についても測定する。

揚水試験により排水される地下水の排出場所は事前に担当職員と協議する。

6) 微流速検層

孔内のたて流速を測定することで、地下水の流動層を把握する。測定は、自然水位状態（定水位法）で1回と、ポンプにより人為的に流速を与え（変水位法）2回行い、以下の事項を記録する。

深度別の流速

上昇流・下降流の別

流動層が複数分布している場合、s-Q分解図により層別の静水位と比湧出量を算出する。

7) 電気伝導度検層

井戸内の塩水化の有無及び程度を把握するため、孔底まで深度毎の電気伝導度を測定する。

深度毎の電気伝導度を測定し、計算により塩分濃度に換算する。

近傍の河川についても主要部で水深別の水温・電気伝導度を測定する。

井水に塩水化の兆候が見られた場合には、必要に応じて変水位法・回復法を実施する。

8) 水質分析

本井はさけます飼育用水として利用されることから、別紙項目について水質分析を行うこと。

9) 安全対策及び廃泥水処理

請負者は、業務実施区域内及びその周辺において、土砂の流出や火災の発生などがない

よう十分注意するとともに、立ち木や家屋等に損傷を与えないこと。

請負者は、危険防止のため業務実施区域内への一般人の立ち入り禁止措置をすること。掘削泥水・廃油脂で外部の汚染被害が発生する恐れがある現場では、必要な設備を設けて業務実施区域の周辺及び河川流域等の外部への流出を防止し、汚染被害等が発生させないようにすること。

廃泥水、廃油脂の処理については、所定の産業廃棄物処理場に処理すること。なお、場所等については事前に担当職員と打合わせることとし、処理状況を写真・伝票等により担当職員に報告する。

3．検討内容

各種試験・検層結果に基づいて、安全揚水量や井戸管理方法について検討し、その後の安定的な運用について提案・協議する。

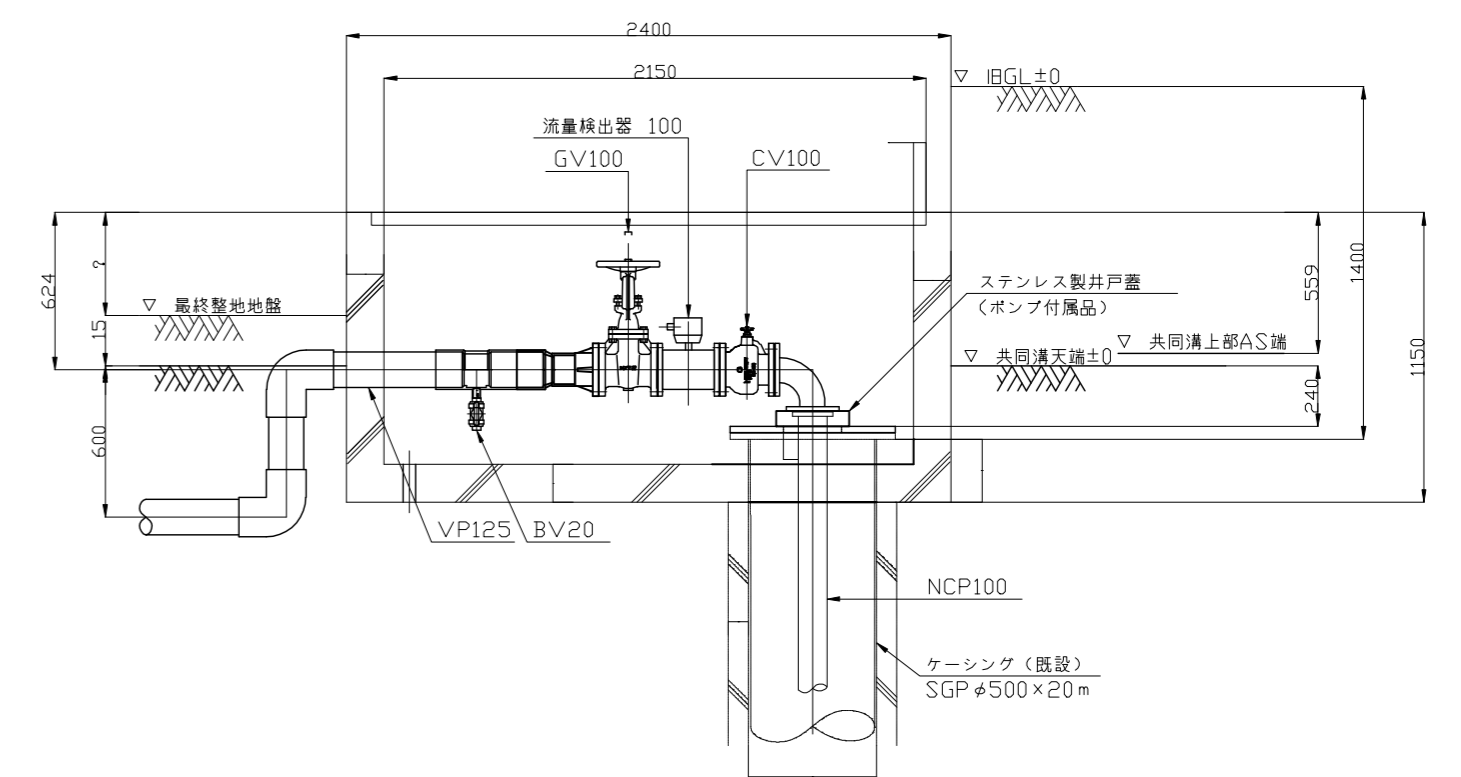
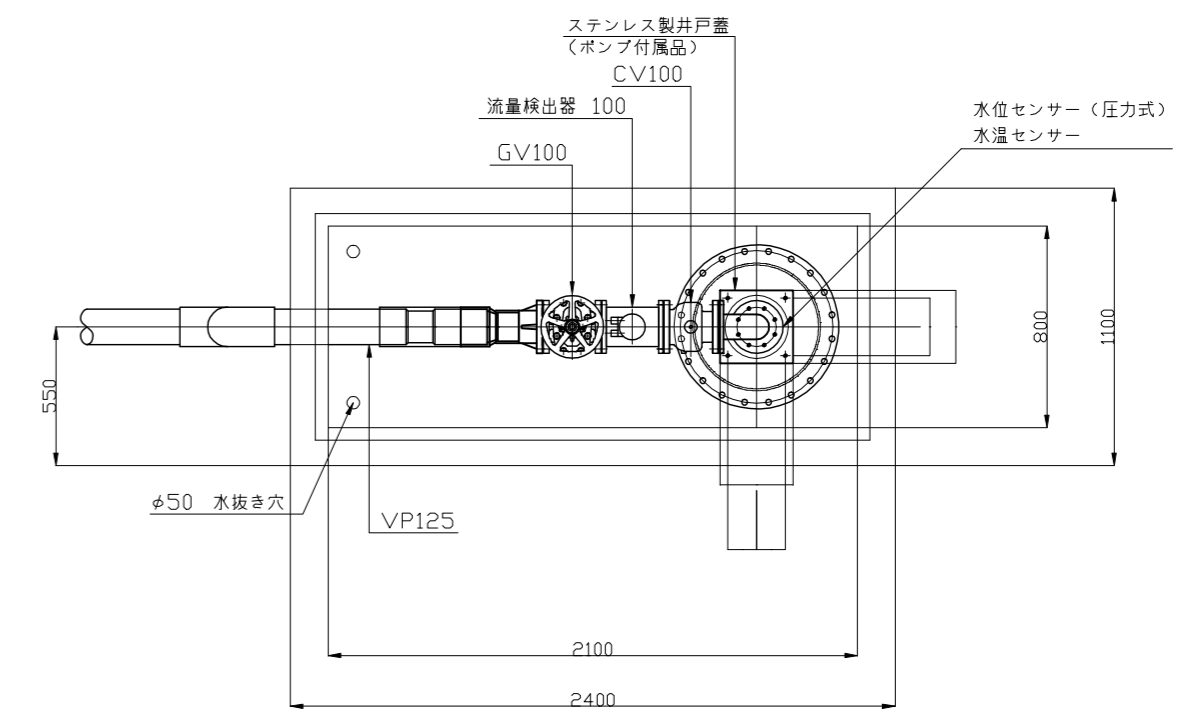
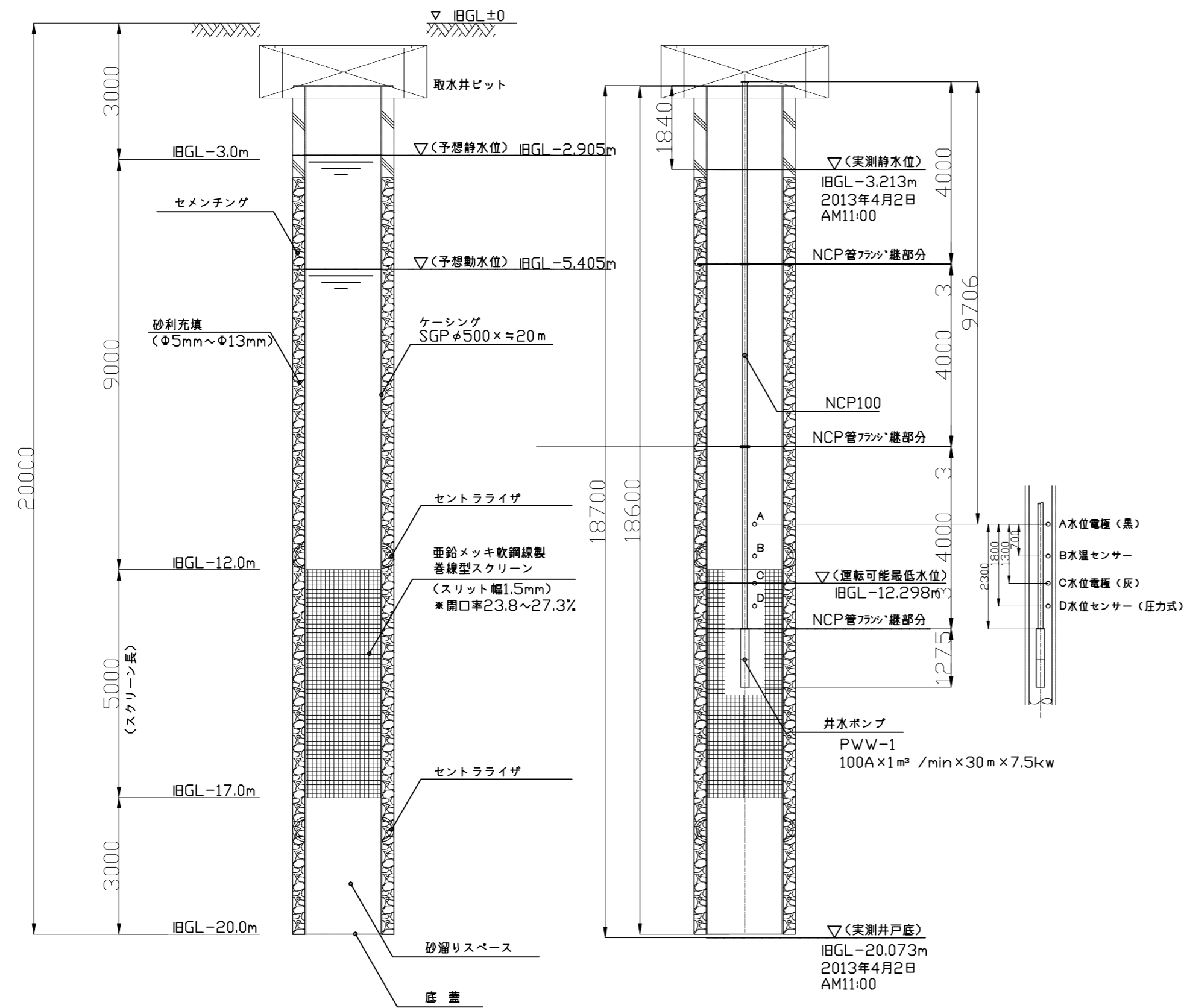
4．成果物

報告書 3部

井戸カメラ動画 1部

(別紙)

番号	分析項目	単位
1	塩素イオン (Cl)	mg/
2	カルシウムイオン (Ca)	mg/
3	マグネシウムイオン (Mg)	mg/
4	アンモニア態窒素 (NH ₄ H - N)	mg/
5	亜硝酸態窒素 (NO ₂ - N)	mg/
6	硝酸態窒素 (NO ₃ - N)	mg/
7	ケイ酸イオン (SiO ₂)	mg/
8	リン酸態リン (PO ₄ - P)	mg/
9	硫化物イオン (SO ₄)	mg/
10	総鉄量 (Fe)	mg/
11	ヒ素 (As)	mg/
12	亜鉛 (Zn)	mg/
13	銅 (Cu)	mg/
14	カドミウム (Cd)	mg/
15	マンガン (Mn)	mg/



訂正	記号	内容	年月日	訂正者	荏原実業株式会社	承認	承認	担当	調査	設計	製図	年月日	工事名称	図面番号
						小笠原	鈴木	菊池	天野	渡辺	武埜	H25.11	東北区水産研究所 宮古庁舎研究管理棟機械設備新設その他工事	M-1605
						縮尺		1:30.100		図面名		井戸設備図		